

よりよい言語指導につなげるために

～聴覚障害教育に携わる教員としての基本～

項 目	
1	子供の座席の配置は、馬蹄形になっていますか？ ＊お互いの口形が見えるようにすることが、相互読話（話を聴こう、話を伝えようという姿勢作り）や話し合い活動につながります。
2	光源や窓を背にして話していませんか？ ＊話し手の口元に影ができ、読話しにくくなります。カーテンの開閉の調節も忘れずに。
3	黒板に書きながら話したり、子供の横や後ろから話したりしていませんか？ ＊子供に声は届いていません。
4	自分が話しているとき、子供は見ていますか？ ＊子供が注目してから話しましょう。話し始めに、話題を知らせると内容をつかみやすくなります。
5	子供が話しているとき、他の子供は話し手を見ていますか？ ＊必ず話し手を見るように促し、相互読話・話し合い活動へつなげていきましょう。
6	補聴器や人工内耳に届く声の大きさや距離ですか？ ＊補聴器の最適距離は 1m20 cm～ 1 m50 cm。最大 2 m50 cmです。静かな環境なら 50～60 d B ですが、環境音を考慮して 70 d B は必要です。騒音計で自分の声の大きさを確かめたことを思い出してください。
7	キューサインは顔や口の横、手指法や手話は胸元で、口が隠れないようにしていますか？音声を伴っていますか？ ＊本校は、聴覚口話＋キューサイン・手指法・手話です。その意味をもう一度確認してください。
8	はっきりした口形と、ことばのリズムを意識して話していますか？ ＊口形の誇張やゆっくりすぎは、言葉のまとまりやリズムをくずします。
9	子供が音声を伴わずに表出したときは、音声を伴うように促していますか？ ＊本校の聴覚口話の基本を思い出しましょう。☆口声模倣を習慣づけましょう。
10	子供の不完全（間違った単語・文）な表出は、その場で直していますか？ ＊聴覚障害は受容（聞こえにくい）障害です。健聴者のように自然に入ってくる音声で訂正されることは難しいと言えます。限られた機会をしっかりと捉えて指導していくことが必要です。☆口声模倣
11	子供の単語での応答を文で話すように促していますか？ ＊正しい日本語の習得のために。（助詞・助動詞や動詞の活用等）☆口声模倣
12	子供が話すとき、習得した発音は正しく言うように促していますか？ ＊いつも一緒にいるとその子供の曖昧な発音に聞き慣れてしまいがち。子供が習得した発音も使わないと定着しません。（筋知覚） また、発音の習得は音韻意識の定着にもつながります。☆口声模倣